

# 緩和ケア通信

第16号

平成24年10月5日

## 緩和ケア市民公開講座を開催しました。

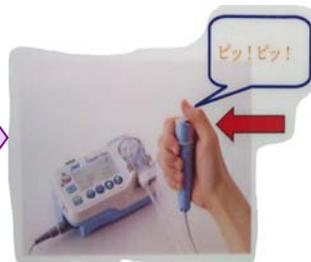


平成24年7月14日に、日本在宅ホスピス協会会長の小笠原内科院長 小笠原 文雄先生をお招きし、地域がん診療連携拠点病院 市民公開講座を開催しました。参加者は170名でした。

「在宅緩和ケアで朗らかに生きよう～おひとり様でも大丈夫～」と題した今回の講座では、在宅緩和ケアの重要性や、その活動などについてのお話をいただきました。ご家族や医療スタッフなどに支えられながら、在宅において笑顔で過ごされている患者さんの紹介もありました。精一杯生きている患者さんの笑顔や言葉に涙する一方で、明るい小笠原先生のお話にも笑いも絶えない内容で、大変好評をいただきました。



**iFuser 2台**  
(ピンクとブルー)  
はいました。



## 「トラマール®」 新しいがん性疼痛治療薬について

iFuserは、国産の「PCA機能付き微量注入ポンプ」です。PCAとは、Patient Controlled Analgesiaの略で、患者さん自身が痛みに応じて鎮痛剤を投与する方法です。

iFuserでは、PCAボタンをおすと、設定量の薬液が注入されます（最短投与間隔も事前設定です）。看護師がフラッシュしなくても、患者さん自身で安全に投与できます。痛いときはナースコールでなく、PCAボタンを押せばよいのです。

iFuserを緩和や術後の疼痛管理にご使用ください。ME室管理になってます。

(菅原 浩)

WHO方式がん疼痛治療法における、3段階除痛ラダーの第2段階に位置づけられる薬剤です。モルヒネと比較して、便秘等の副作用が少なく、麻薬及び向精神薬に指定されていないため金庫管理が不要となります。今まで第2段階の薬剤はコデインのみでしたがトラマール®が加わり、がん性疼痛治療剤の選択肢を拡げQOL改善に貢献できると期待されています。